



3月1日から7日まで 春の全国 火災予防運動

出火原因トップは放火火災
住宅防火の対策を

放火火災に注意
家の外周りは整理整頓し、段ボールなどの燃えやすい物を置かない▽外灯を付けるなどして明るくする▽車庫、物置などに鍵を掛ける▽車やバイクは路上に駐車せずカバールームも防火性の物を使用する▽ごみは収集日の朝に出す

住宅防火対策の推進
寝たばこの防止▽火が燃え移らないよう、ストーブは燃えやすい物から離す▽ガスコンロから離れる時は必ず火を消す▽たこ足配線をしない▽住宅用消火器・住宅用火災警報器を設置する

「消すまでは、心の警報 ONのまま」をスローガンに、3月1日(土)から7日(金)まで、全国一斉に春の全国火災予防運動が展開されます。
期間中、消防本部では各種事業所の査察、広報車による巡回、その他の火災予防行事を行います。
空気が乾燥し火災が発生しやすい気候となるため、防火に心掛けましょう。詳しくは消防本部予防課 ☎(757) 9946へ。



☑ Preparation for Disaster

災害に備える

「いざというとき」に適切に行動するためには、市民の皆さんの心構えが大切です。私たちの備えが減災につながることもあります。被害を最小限に食い止めるためにも、災害への備えを心掛けましょう。

25年に火災・救急・救助件数はこれだけありました

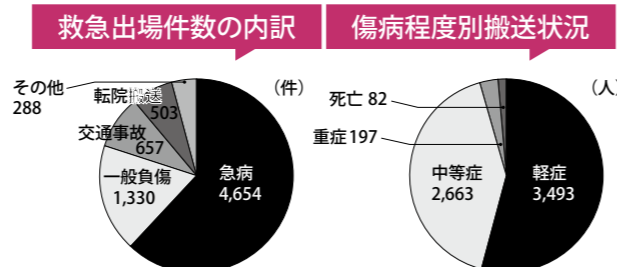
■「放火」による火災が12年連続トップ
25年中に発生した火災の件数と前年との比較内訳は下表の通りです。
出火原因は「放火」が12件とトップで、次いで「たばこ」が6件、「電灯・電話等の配線」が3件、「こんろ」「ストーブ」「火入れ」が各2件と続いています。
建物の焼損床面積は、前年より1,059平方メートル減少し219平方メートルです。
火災による損害額は1億6,234万9,000円減少して4,282万4,000円で、火災1件当たり102万円、1日当たり11万7,000円の損害となっています。
また、火災による死者は1人、負傷者は4人で、14世帯36人が被災しています。

■救急出場件数は昨年より130件減
25年中の救急出場件数は7,432件(前年比130件減)で、4年間増加してきた件数が減少。内訳は下図の通りで、1日当たり20.4件救急出場し、6,435人を搬送しています。搬送した傷病者のうち65歳以上の高齢者は、前年より98人増加の3,971人で全体の61.7%を占めています。

■救助出場は昨年に比べ13件の減少
25年中の救助出場は101件(前年比13件減)、救助人員は45人(同17人減)となっています。内訳は「建物等による事故」が42件、「交通事故」が18件、「水難事故」が5件、「火災」が4件、「ガス及び酸欠事故」が2件、「その他の事故」が30件となっています。

25年の火災発生件数と24年との比較

火災種別	25年	24年	増減
建物	22件	33件	△11
林野	2件	0件	2
車両	4件	4件	0
その他	14件	9件	5
合計	42件	46件	△4



川西南消防署が移転します

4月1日(火)からしばらくの間、南消防署がNTT西日本川西支部庁舎内(丸の内町)に移転します。詳しくは消防本部 ☎(759) 0119へ。

3月10日から14日まで 防災フェアを開催

佐藤真一さんの写真展
防災グッズの紹介
コンクール作品の展示

東日本大震災を風化させず、南海トラフ巨大地震などの災害に備えるため、3月10日(月)から14日(金)に市役所1階市民ギャラリーで、写真家の佐藤真一写真展「南三陸からのメッセージ」を開催します。非常持ち出し品、家具転倒防止器具などの防災グッズも展示します。また、昨年募集した「川西市わが家の防災対策コンクール」で、入選した作品も同ギャラリーに展示し、市ホームページに掲載します。主な受賞作品は下記の通り。詳しくは危機管理室 ☎(740) 1145へ。

川西市わが家の防災対策コンクール

防災意識と自助意識の向上のために、市では、今回初めて防災対策に関する作品を募集しました。下記の3作品が入選し、2月13日には表彰式が行われました。

- 市長賞**
松田真実理さん(川西中3年)
受賞作品「私一人のDIG」
災害図上訓練のDIGを自分自身で実践。災害時について想定しながら、自分の住む地域の危険性などについてレポートしています。
- 阪神北県民局長賞**
吉田孔志さん(川西中1年)
受賞作品「住宅の耐震と制震」
画用紙やクリップなど身近な文房具を使って耐

震と制震の違いについて考察しています。
優秀賞
加茂小学校区コミュニティ推進協議会
受賞作品「加茂小学校区の防災マップ」
加茂小学校区の避難所やAEDの設置場所などが記載された防災マップを作成。

